

田植後1ヵ月後に中干し溝切を行います!

■中干しの効果

土壤に酸素を供給し、根を活性化させます。また、過剰な分けつを抑制することにより、風通しを良くし、光が株元に届きやすくします。また、モミ数が制限されることから、粒厚が厚く、整粒歩合の高いお米ができます。軽く足跡がつく程度で、約2週間程度の中干しを心掛けてください。

中干し時期の莖数(コシヒカリの目安)

栽植密度(／坪)	50株	60株	70株
1株当たりの莖数	20本	17本	14本



■溝切り

- ☑ 溝切りを行うことで、入水・落水がスムーズ(効率的な水利用)に行え、胴割米の防止と粒厚の向上につながります。
- ☑ 確実な溝切りにより、地耐力が増し落水時期を遅らせることができるので、今後のカドミウムの吸収抑制(湛水管理技術)に効果があります。
- ☑ 10aあたり1本以上の溝切りを原則実施し、溝は尻水戸までしっかりつなぐようにしましょう!



麦・大豆栽培につながる溝切り作業

水稲跡に麦を作付けされる場合、溝切りした溝が、麦の播種前の排水対策にも有効に活用されます。収穫時にコンバインで溝をつぶさないようにしましょう。

水稲カドミウムリスク対策情報 「湛水管理」に向け、適期作業を!!

出穂前後各3週間の時期になると湛水管理作業が始まります。

湛水管理は、玄米中カドミウムの吸収を抑制するための重要な技術です。

今後、水管理・湛水管理がスムーズとなるよう作業の実施をお願いします。

中干し作業は、地耐力を向上させる唯一の手段です!

植付約1ヵ月後2週間程度の中干しを徹底しましょう



② 畦畔等の水漏れ確認漏水防止

★作付後に、田んぼの漏水状況を見回り効率的な水管理・湛水管理が実施できるよう事前に点検しましょう。

- ☑ 排水口の止水板管理
- ☑ 畦からの漏水 (ネズミ・モグラ穴からの漏水)
- ☑ 低くなった畦からのオーバーフロー
- ☑ 構造物・暗渠排水管まわりからの漏水



JALレーク伊吹 農産物安全対策協議会